

## ちくちく、クロスステッチがストリートで人気。

×印の縫い目を組み合わせてモチーフを作り上げるクロスステッチ。この伝統的な刺繍が最近また、注目されている。今年2月に開店した「ホームショップ」が人気の発着店だ。「子育てで、家に閉じこもりがち……自宅で作りたい」と、オーナーのエルケはプロ用のブラザー刺繍ミシンを買った。もともとストリート・ファッションが好きだった彼女。新しいブランドをクロスステッチで作ってみたいと思いついた。ピクセルを使ったグラフィティで有名なストリート・アーティスト、「ノコビ」をフリーチャート。夜光性の糸を使ったクラブ仕様も考えた。パッチはMOMAのキュレーターの目にとまり販売が決定。クロスステッチ人気世界に広がるかも？



下：自宅のような雰囲気のお店。冷蔵庫はテーブルに、シャワー室が試着室に。左上：オーナーのエルケ。左下：ショッピングカートが目印。



**HOMESHOP**  
 ● Oderberger Str. 23  
 ☎ (030) 6005-9927  
 ① EBERSWALDER STR.  
 営業12時～18時30分(月～金)  
 12時～18時(土)  
 ※日、祝  
 カード：①、②、③  
 www.silberfischer.com



NYのMOMAで行われるベルリン展でも販売されるパッチ。各5ユーロ(夜光のものは6ユーロ)



ストリートな雰囲気でも人気のキャップ。25ユーロ

# Berlin

## 疾走するベルリン



ずらりと並んだガラス瓶の中のもの量は量り売り。1個から買える。ラクリッツを使ったレシピなども開発、振興に努める。

## 日本人の舌には？ 黒い菓子“ラクリッツ”

スーパーや菓子屋で見かける黒い物体。ドイツ語では、ラクリッツ。と呼ばれる、甘草を使った菓子だ。グミキャンディのような独特の歯ごたえで、ドイツ、オランダ、北欧を中心に人気があるが、葉っぱいけのある味が、日本人にはとても評判が悪い。このラクリッツを300種類以上集める、ドイツ唯一の専門店が「カド」だ。「北欧のほうに行くほど、アンモニア臭のきつい塩味のものが増える。南のほうに行くと、ジュシーなもの。ドイツはその中間で、チョコやグミと組み合わせるものが多い」とオーナーのペーゲ。通好みの塩味から、まったくラクリッツの味がしないフルーティなものまで。1個から試食できるのも、ラクリッツ初心者にも安心だ。

色は黒だが、形は凝っている。右から「親指」、オランダの「乗り物シリーズ」100g1.8ユーロ、「パイプ」1本35セント



グラフィカルで面白いラクリッツのパッケージ。

**Kado-Lakritzfachgeschäft**  
 ● Graefestr. 75  
 ☎ (030) 6904-1638  
 ① SCHÖNLEINSTR.  
 営業9時30分～18時30分(月～金)  
 9時30分～15時30分(土)  
 ※日、祝  
 www.kado.de



## 期間限定、ベルリンの若手がここに集結!

3月末、ミッテ地区のファッション・ストリートに、ベルリンのデザイナーたちの作品を集めた店がオープンした。ビール会社ベックスが主催する若手ファッション・デザイナーの登竜門「ベックス・ファッション・エクスベリエンス」で注目を浴びた若手が、店の主力商品だ。多数の候補者の中からベルナルト・ヴィルヘルムなど、有名デザイナーと、独「ヴォーグ」誌編集長が頭を悩ませ、選りぬいた20ブランドを扱う。「世界的にも注目を集めるベルリンのファッション・シーン。若手がコレクションを発表できる場があるのは大事」と新鋭デザイナー、マルクス・ルプファア。残念なのは5月末までの期間限定だということ。いますぐストアに駆けつけたい。



左：昔風の柄タイルは、肉屋だったなごり。磨かれた漆黒のテーブルに、タイルの模様は映り込み美しい。縦につなげた蛍光灯がモダン。右：約20のデザイナーの作品が、整然と並ぶ。



**Beck's Fashion Store**  
 ● Alte Schönhauser Str. 48  
 ☎ (030) 8471-0832  
 ① WEINMEISTERSTR.  
 営業12時～20時(月～金)  
 11時～18時(土)  
 ※日  
 www.becks-fashion.de  
 ※5月末まで

右・中：セレクトショップや、ブティックが軒を並べるアルテ・シェーンハウゼン通りに開店。左：オープニングに駆けつけたドイツの人気デザイナー、マルクス・ルプファア。彼の作品も取り扱っている。



## \*penは月2回刊、1日と15日発売。

ジャン・クロード・ペリヤ、写真 photographs by Gianni Piccini  
 河内秀子・文 text by Hidako Kawachi